

今週の相場はどうなる？

今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○11月3日～

先週はイベントがたくさんありましたが相場はリスクオンの動きが強まり、円安・株高が進みました。日米の金融政策は米国が利下げ、日本は金利据え置きと予想通りの結果となりましたが株価の上昇が止まりません。

米国株も高値更新が続きましたが日経平均は5万円を超えてから勢いがつき、52500円あたりまで上昇しています。

あまりにも急激な上昇が続いたため11月は反動で調整に入るリスクを警戒したいです。

今月前半は企業決算などが多く、株価の動きが大きくなると為替相場にも影響があるかもしれません。AIバブルがどこまで続くかも企業決算の数字で左右されます。失望売りなどで大きく崩れだした場合は注意がいります。

円安も進行中ですが155円を超えてくるとけん制発言などが出てきそうです。

また、年内利上げの可能性が高まれば円安の動きは落ち着いてくるかもしれません。

米国は指標の発表が延期されていることでデータ不足のため12月の利下げについては不透明な状況です。パウエル・FRB議長も「12月の利下げは既定路線ではない」とコメントしています。

次の金融政策で日本が利上げ、米国が金利据え置きの可能性が高まれば円高の動きに変わってくれかもしれません。

米中貿易問題は、レアアースについては規制を1年延期するとの米中合意となりましたが、レアアース問題は今後も再燃するかもしれません。

米国の農産物については、中国が輸入を再開するということですが半導体については中国がエヌビディアからの輸入をゼロにする可能性もあります。

ファーウェイなど中国製のものを使うことを推奨しているという話です。米国にも軍事転用のリスクを懸念する声があり、中国への半導体輸出に慎重な意見が出ています。

結局、中国に対する関税はフェンタニル問題で20%引き上げた分を10%引き下げて、47%になりました。貿易問題はなんとか落ち着いたという感じです。1年間の休戦状態とも言われています。また、中国がフェンタニルの取り締まりを強化すれば、残りの10%も撤廃すると言っています。

関税問題は解決に向かいそうですが、米国の政府閉鎖はまだ続いています。

今週末に雇用統計の発表がありますが先月同様、延期される可能性があります。

政府機関閉鎖が1ヶ月以上となってきたため影響が出てくると言われています。

色々な福祉サービスなどが停止されるという話もあり、経済にとってマイナスの話が出てくればマーケットに影響するかもしれません。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週は週の前半は下げましたが151.5円あたりで下げ止まり、週の後半にかけて154円台まで上昇してきました。

154.5円を超えると155円が視野に入ってきますが155円台では上値が重くなってくる可能性があります。円安に対するけん制発言が出てきそうなため高値買いは避けたいです。

週足のチャートを見ると2024年の高値を起点(162円あたり)に引いたレジスタンスライン(抵抗線)が155円あたりにきています。

中長期的にも155円を突破して円安が進んでいくかどうかがポイントになってきそうです。

下値は153.2円を維持できれば強い動きが続きそうですが153円を割り込んでくると先週安値の151.5円あたりまで下げる可能性があります。

151.5円を割り込むと150円あたりまでの下げは想定しておきたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での推移を続けているペアが多く、上昇が続くかどうかの見極めが重要です。

ポンドは高値更新の動きとなっていないため安値更新の動きを警戒したいです。

特に、200円を割り込んでくると大きく下げるリスクが出てくるため注意がいります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:○○／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。

米国では10月製造業PMI(改定値)、10月ISM製造業景況指数、9月貿易収支、9月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、9月製造業新規受注、10月ADP雇用統計、10月サービス部門・総合PMI(改定値)、10月ISM非製造業景況指数、前週分新規失業保険申請件数、10月雇用統計、11月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州では、ドイツとユーロ圏で10月製造業・サービス業PMI(改定値)、ドイツで9月製造業新規受注、9月鉱工業生産、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、9月卸売物価指数、9月小売売上高などがあります。

ほかには、オーストラリアと英国で政策金利発表、英国で英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨、中国で10月Caixin製造業PMI、10月貿易収支などがあります。